

山口県における特定感染症事業肝炎ウイルス検査におけるフォローアップ体制の構築

研究分担者：日高 勲 山口大学大学院医学系研究科 消化器内科学
研究協力者：磯部 元胤、古谷 正洋 山口県健康増進課

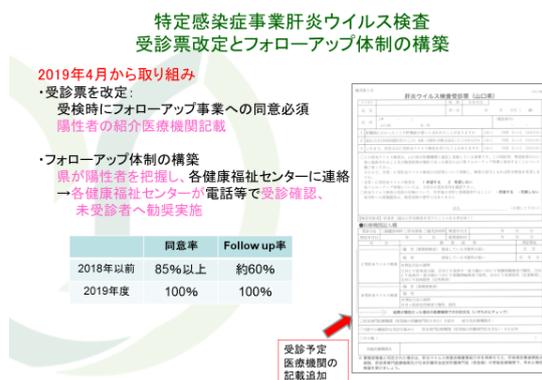
研究要旨： 現在国を挙げて肝炎検査受検、受診促進の取り組みが実施されているが、いまだに自身の感染を認識していない方や感染を知っていても医療機関を受診していない患者が多く存在すると推測されている。山口県では行政と拠点病院、肝炎医療コーディネーターが一体となって肝炎検査啓発活動を継続することより、特定感染症事業における肝炎ウイルス無料検査の受検数は2013年以降増加した。近年検査数は減少傾向であるが、新規陽性者数も減少傾向であり、継続的な啓発活動の成果と考える。検査陽性者に対しては、2019年4月に受診票の改正とフォローアップ体制の見直しを実施し、現状調査ではフォローアップ率は100%であり、約50%の陽性者の受診確認でき、フォローアップ体制の構築の成果である。受診確認時、未受診者への受診勧奨を行っており、受診率向上につながるか今後検証する。

A. 研究目的

わが国には約350万人の肝炎ウイルスキャリア（B型肝炎、C型肝炎）がいると推定され（厚生労働省）、ウイルス肝炎は国民病であると記述されている（肝炎対策基本法前文）。ウイルス性肝炎の治療の進歩や国を挙げて肝炎検査受検、受診促進の取り組みの結果、肝炎ウイルス陽性者は減少傾向にあるが、いまだに自身の感染に気付いていない方や感染を知っていても医療機関を受診していない患者が多く存在すると推測されており、さらなる対策が求められている。

山口県では、拠点病院と行政、肝炎医療コーディネーターが連携して受検啓発活動を行ってきた。啓発効果について検証する。

山口県では検査受検時に、フォローアップ事業への同意取得を実施し、ほとんどの受検者より同意取得できていたが、肝炎ウイルス検査陽性者が適切に医療機関を受診しているかどうかは十分に把握できていなかった。2019年4月に受診票を改定、受検者はフォローアップ事業への同意を必須とし、フォローアップ体制の見直しを行ったので（下図）、効率的な受診状況把握につながるか検証した。



B. 研究方法

①受検啓発の効果検証

山口県が実施している特定感染症事業肝炎ウイルス無料検査の実施状況と検査陽性者の推移を調査する。

②効率的な陽性者フォローアップ体制の確立と受診状況実態調査

山口県では研究分担者と県で協議を行った結果、2019年より特定感染症事業による肝炎ウイルス無料検査受検時にフォローアップ事業への同意取得を必須とし、受診票の改定とフォローアップ体制を変更した。受診確認状況について調査する。また、県健康福祉センター実務担当者に取り調べを行う。

C. 研究結果

①受検啓発の効果検証

山口県における特定感染症事業における肝炎ウイルス無料検査の受検者数（下関市を含む）は2012年度7543人、2013年度7519人、2014年度8719人、2015年度7810人、2016年度7803人、2017年度7931人、2018年度7215人、2019年度6401人、2020年度（12月末現在、下関市未集計）3878人であった。検査における陽性者数（陽性率）はHBs抗原陽性者2012年度38人（0.5%）、2013年度37人（0.5%）、2014年度58人（0.7%）、2015年度43人（0.6%）、2016年度38人（0.5%）、2017年度37人（0.5%）、2018年度27人（0.4%）、2019年度29人（0.5%）、2020年度11人（0.3%）、HCV抗体陽性者2012年度67人（0.9%）、2013年度57人（0.8%）、2014年度67人（0.8%）、2015年度56人（0.7%）、2016年度49人（0.6%）、2017年度29人（0.4%）、2018年度30人（0.4%）、2019年度22人（0.3%）、2020年度7人（0.2%）であった。

検査受検者数は近年減少傾向であるが、新規陽性率も低下している。



②効率的な陽性者フォローアップ体制の確立と受診状況実態調査

2018年度より研究分担者と県で協議を重ね、2019年4月に特定感染症事業による肝炎ウイルス無料検査の受診票を改定し、受検時にフォローアップ事業への同意取得を必須とした。また、陽性者の受診予定医療

機関記載欄を追加し、県が陽性者および受診予定医療機関を把握、県よりリストを送付し、各健康福祉センターの担当者が所管する地域での陽性者の受診状況確認と未受診者への受診勧奨を開始した。

2019年度に実施した過去3年間の陽性者に全員に対し、フォローアップが可能となり（フォローアップ率100%）、受診確認率は2017年度陽性者41.8%、2018年度陽性者58.6%、2019年度51.0%であった。

特定感染症事業 肝炎ウイルス無料検査における受診確認状況

	陽性者数	Follow up 同意者	受診確認数	Follow up 同意率	Follow up率	2020年3月時点
						受診確認率
HBV						
2017年	37	37	9	100%	100%	24.32%
2018年	28	28	17	100%	100%	60.71%
2019年	28	28	13	100%	100%	46.43%
HCV						
2017年	30	30	19	100%	100%	63.33%
2018年	30	30	17	100%	100%	56.67%
2019年	23	23	13	100%	100%	56.52%
合計						
2017年	67	67	28	100%	100%	41.80%
2018年	58	58	34	100%	100%	58.60%
2019年	51	51	26	100%	100%	51.00%

県内には県健康福祉センターは8施設あり、管轄地域毎に陽性者数を把握すると、UB地区で実施検査数が多く、陽性者も多いことが判明した。そこで、2021年2月にUB地区の担当者（職種：事務職）に面会し、聞き取り調査を実施した。調査の結果、UB地区では県から陽性者リストの一覧が届く前に、受診票による陽性者を把握次第、できるだけ早期に電話で受診勧奨を実施されていた。受診勧奨については、肝炎医療コーディネーター事業開始後、研修会等で肝炎に関する最新の知識を把握でき、受診勧奨を以前より適切に実施できているとのことであった。また、未受診者には再度連絡をとるなど、適宜対応されており、すでに受診勧奨後の受診例も把握できていた。また肝炎治療費助成制度の窓口も担当しているため、受診の確認がしやすいとの意見もあった。

特定感染症事業 肝炎ウイルス無料検査における受診確認状況

2020年3月時点

地域別陽性者数とフォローアップ後の受診確認率:

	2017			2018			2019		
	受診者	対象者	受診率	受診者	対象者	受診率	受診者	対象者	受診率
IW	5	8	62.5%	6	7	85.7%	4	5	80.0%
YN	1	2	50.0%	0	1	0%	0	1	0%
SHU	3	7	42.9%	9	14	64.3%	5	10	50.0%
HF	0	1	0%	2	3	66.7%	2	6	33.3%
YM	4	7	57.1%	1	12	8.3%	2	14	14.3%
UB	12	25	48.0%	15	20	75.0%	13	28	46.4%
NG	1	1	100%	1	1	100%	2	3	66.7%
HG	0	0		0	0		0	0	
合計	26	51	51.0%	34	58	58.6%	28	67	41.8%

→受診確認時の未受診者への受診勧奨
UB地区R1陽性者において2020年に新たに5名受診確認

D. 考察

山口県では、拠点病院と行政、さらには肝炎医療コーディネーターが連携して肝炎ウイルス無料検査の受検啓発活動を続けてきた。2013年以降、受検数は増加したが、近年減少傾向である。検査による陽性率も2017年以降低下傾向であり、行政と拠点病院を中心とした医療従事者が連携して啓発活動を継続した成果として、ある程度検査が実施されたことを反映していると推察する。しかし、いまだに新規陽性者が確認されており、陽性率も比較的高く、受検啓発の継続はまだまだ必要であると思われる。

実際の検査は保健所実施検査の受検数は少なく、ほとんどが痛く医療機関による検査であったため、陽性者に対するフォローアップ同意を得られているにも関わらず、これまでフォローアップは十分に行われていなかった。そこで、2019年4月にフォローアップ体制を見直し、委託医療機関実施検査における陽性者に対しても、県健康福祉センターから受診確認を行う体制を構築した。その結果、陽性者に対するフォローアップ率は100%となり、2017年から2019年の陽性者のうち、約50%で受診が確認できた。受診確認時に、未受診者へ受診勧奨を行っており、受診率増加につながることを期待する。

E. 結論

行政と拠点病院、肝炎医療コーディネーターが一体となった継続的な肝炎ウイルス無料検査の受検啓発活動は効果的であり、継続していく意義がある。県が統括する健康福祉センターによるフォローアップ体制は受診確認に有効であり、約50%の陽性者で受診が確認された。未受診者への受診勧奨を実施しており、受診率向上につながるか、今後検証していく。

F. 政策提言および実務活動

<研究活動に関連した実務活動>

上記の研究班活動に加えて、山口県肝炎対策協議会の委員として、県の肝炎に関する総合的な施策の推進活動に携わっている。今年度は初回精密検査費用助成の対象拡大を受け、術前検査および妊婦検診における肝炎ウイルス検査陽性者向けのリーフレットを作成した。

G. 研究発表

1. 発表論文

○日高 勲、坂井田 勲 山口県における肝炎対策の現状 肝臓クリニカルアップデート 2020;6(2):277-280

2. 学会発表

○野村洋子、日高 勲、石丸 康隆、坂井田 功 県行政と拠点病院が連携した肝炎ウイルス無料検査陽性者フォローアップの取り組み 肝臓61 Suppl(1) A256, 2020

3. その他

啓発資料

肝炎ウイルス検査受検啓発リーフレット
「肝炎ウイルス検査をうけましょう」
初回精密検査費用助成紹介リーフレット
「肝炎ウイルス検査で陽性となった方へ」
(別添え)

啓発活動

日高 勲：講演「肝炎撲滅を目指した受検・受診・受療の取り組み～山口県肝疾患コーディネーターとともに～」

山口県肝炎医療コーディネーター研修会
2020年10月 Web配信 主催：日本肝臓学会、
山口大学医学部附属病院肝疾患センター

日高 勲：講演「肝炎医療コーディネーターの役割」

令和2年度山口県肝疾患コーディネーター
養成講習会 2020年11月15日

主催：山口県、山口大学医学部附属病院

H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得
なし
2. 実用新案登録
なし
3. その他
なし